

平成 30 年 7 月 18 日  
日本測量者連盟  
第 1 1 分科会委員長  
藤井十章

## 「第 2 回 FIG Young Surveyors Network Asian Pacific Meeting in Japan」開催報告

本会議は、アジア太平洋地域における青年測量者が各分科会の垣根を越えて集まり、将来に向けて活躍する人材が、横のつながりを持ち、専門分野・教育環境・テクノロジーなどの情報交換を行える場として、2012年のローマ大会の本大会を皮切りに、全世界の5つの地域に分けて開催されているイベントになります。日本においては、4年前のクアラルンプール大会以後、Japan Young Surveyors Network(第11分科会)が発足し、国内の青年測量者へ FIG や世界各国の情報を伝達する活動を行っています。

今般、FIG Young Surveyors Network の会長を務める Eva Maria-Unger よりアジア太平洋地域での青年測量者会議を彼女の集大成として開催してはどうかという話があり、JYSN の認知度も上昇させる良い機会ととらえて、開催する運びとなりました。

### 1. 開催概要

日時：平成30年6月15日（金）～16日（土）の2日間

場所：青山学院大学 アスタジオ地下1階

対象者：この会議は、若い測量者、大学・専門学校卒業を10年未満の者または応援する者

主催及び協賛企業：

FIG (Fédération Internationale des Géomètres),

FIG Foundation(International Federation of Surveyors Foundation),

UN-Habitat, GLTN(Global Land Tool Network),

日本測量者連盟 (Japan Federation of Surveyors),

日本測量協会(Japan Association of Surveyors),

日本土地家屋調査士会連合会(Japan Federation of Land and House Investigators' Associations),

株式会社リプロ, 株式会社 NTT データ,

特定非営利法人 Crisis Mappers Japan, Drone Bird

プロジェクト JICA

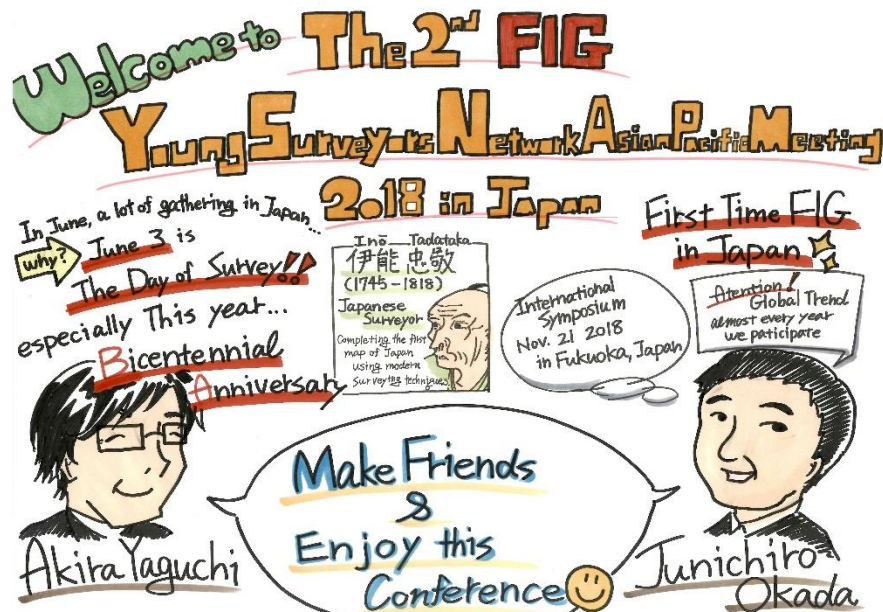


2. 講演プログラム

講演では、青山学院大学の学生によるグラフィックレコード（以下の画像）でセッションの内容をレポートする。

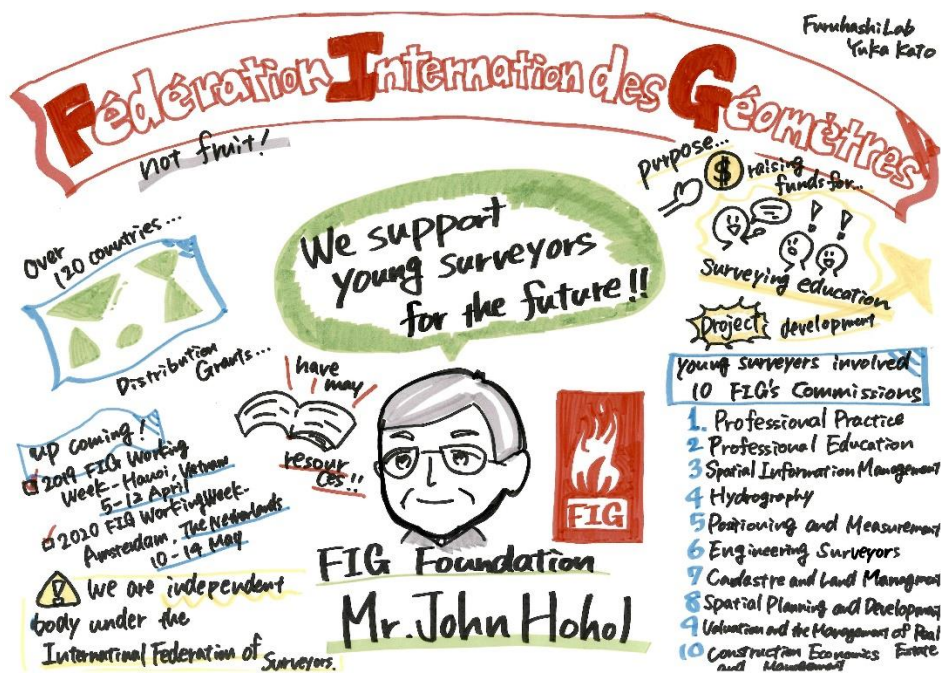
基調講演（6月15日）

□ 矢口 彰(日本測量者連盟会長)・岡田 潤一郎（日本土地家屋調査士会連合会）



友達をつくる大切さ、この会議を楽しもう！

Mr. John Hohol(FIG 財団会長)



将来のために、青年測量者を支えます！

FIG財団から今回の大会に参加する為、奨学金の授与が行われた。また、FIG財団のJohn Hohol会長の計らいで、オーガナイズご苦労様賞を受賞させていただきました。



祝電をFIGのChryssy Potsiou会長から、次期青年会の会長のMelissa Harringtonさんから頂きました。

2018年6月15日(金曜日)セッション

□ FIG Young Surveyors Network Volunteer Community Surveyor Program (YSN VCSP), YSN Goals and Future, エバ・マリア・アンガー (FIG YSN Chair)



みんなでVCSPに参加して、キャリアを積もう！

日本における初期の「測量」の歴史とその背景について、松崎小太郎(JYSN)

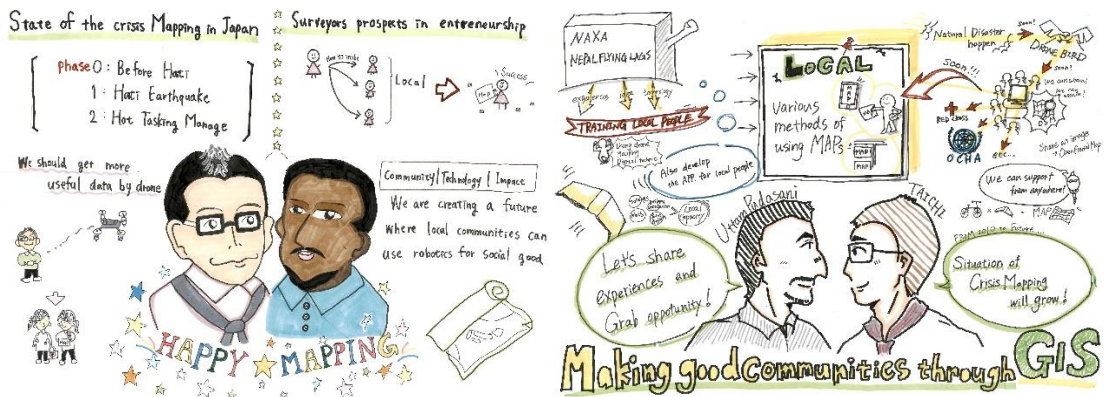


徴税のための測量、伊能忠敬がおこなった測量作業とは？近代測量の幕開けと最新の測量まで、測量の流れをまとめていただきました。

Crisis Mapping and Drone Bird プロジェクト, 古橋大地教授 (青山学院大学)

Surveyors' prospects in entrepreneurship.

- Learnings from Naxa and Nepal Flying Labs, Uttam Pudasaini



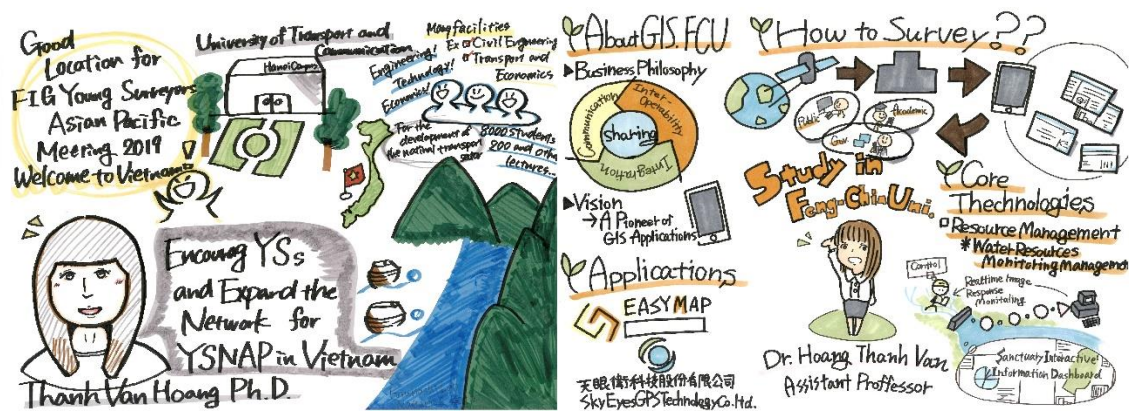
このセッションでは、ドローンを活用して、何ができるのかについてディスカッションが行われた。





アジア太平洋地域青年会議

一次のベトナム大会に向けて (ベトナム・台湾の紹介)

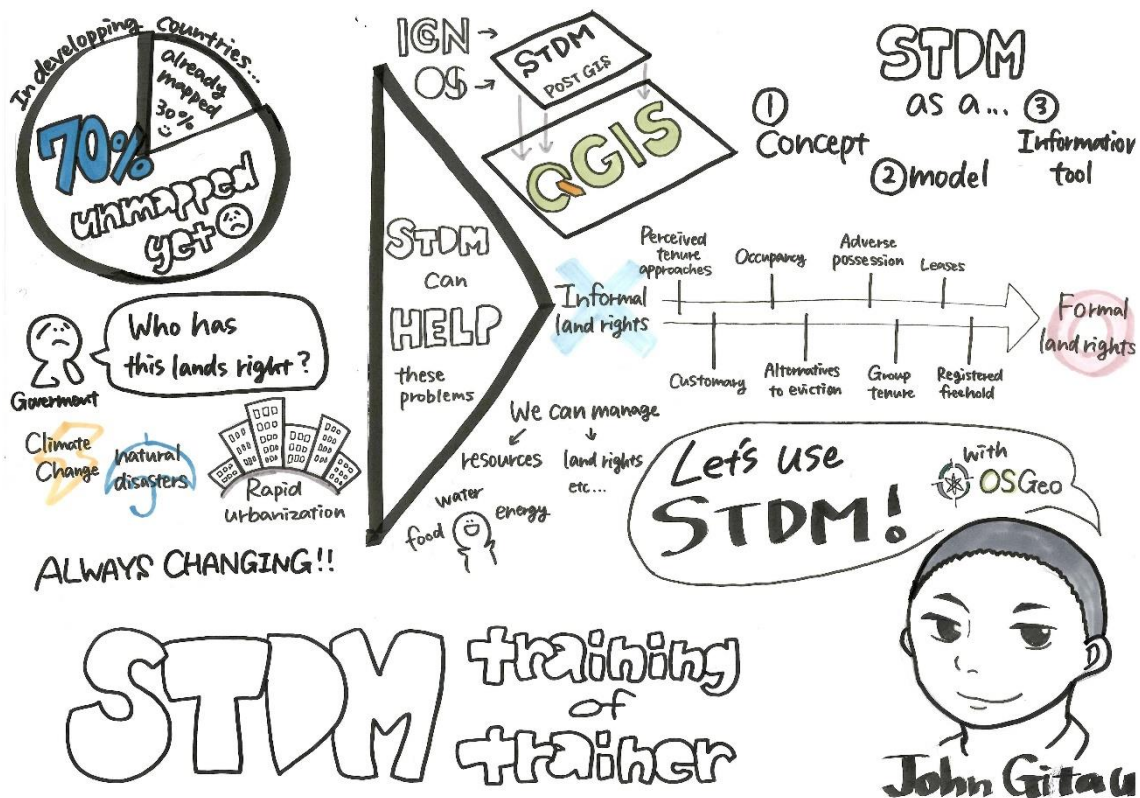


アジア太平洋地域のYoung Surveyorがもっと活性化する方法について、みんなが何ができるかについて議論してみました。

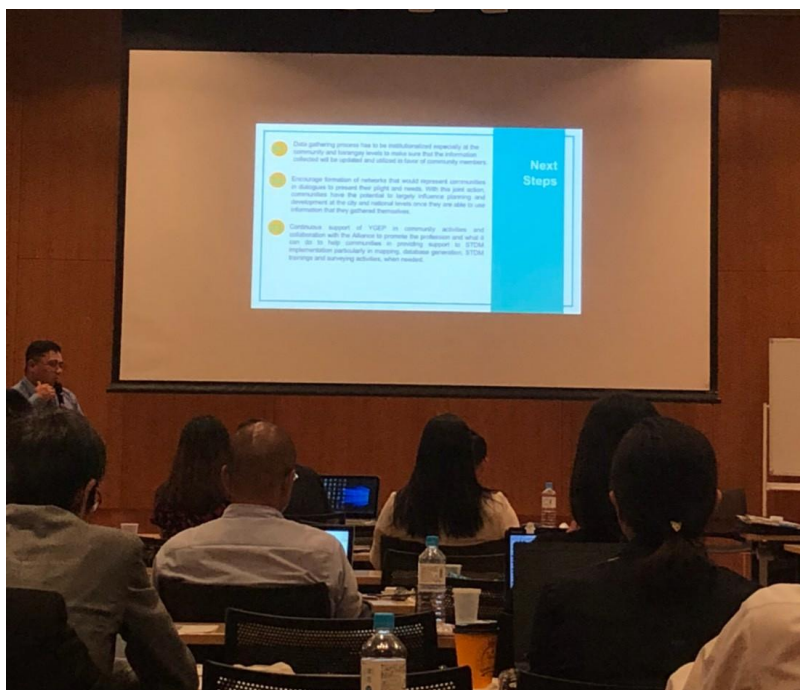


2018年6月16日 (土曜日)

STDM Trainer of Training, ジョン・ギタウ (UN-Habitat GLTN), エバ・マリア・アンガー (FIG YSN), 藤井十章 (JYSN) 山中匠 (日本)



Reporting Case - Philippines STDM, ドン・マール (フィリピン)



Reporting Case - Nepal STDM, シュリスティ・パウデル (ネパール)



Reporting Case - 日本の地図混乱地域について 飯沼健吾 (日本)



以上の3か国の取り組みについて紹介・STDMのインストールと使い方・NTTdataによる3Dデータの活用の可能性・株式会社リプロの製品から境界標識の重要性について学んだ。



### 3. その他

世界のさまざまな文化を理解するのに、その国の踊りを参加者で踊るということがマレーシア大会から通例になっており、直前のイスタンブール大会でもダンスのセッションが模様されたくらいであった。アジア太平洋地域会議のセッションの後、日本の夏の風物である盆踊り。よく踊られる「炭坑節」を全員で踊った。



この会議は、これまで参加した FIG YSN の会議そのものであり、日本にこの活動を持って帰ってこれたことをとてもうれしいです。今後 FIG に青年測量者が参加する際は、YSN に参加し友達を増やしながら、専門的なコミッションで活動できることに貢献できればと思います。

